



一宮ロータリークラブ
2025-26 年度
会長方針 山上 哲司

1905 年ロータリークラブが設立された当時とは全く異なる世界に今日我々は生きており、複雑で多様な課題に直面しています。

政治的には、ポピュリズムの台頭や民主主義の後退が見られ、社会の分断が進んでいます。

地政学的には、ロシアとウクライナ、イスラエルとパレスチナあるいは台湾海峡情勢等解決の兆しが見えない緊張が続いています。

経済的には、インフレや供給チェーンの混乱が続いており、各国の経済成長に影響を与えています。

このような情勢の中で、国際的な支援、奉仕をできる限り行いたいと考えています。

さて、一宮ロータリークラブは設立以来 75 年余に渡り、会員相互の親睦を育むと同時に、常に変化する社会、価値観に対応するための改革を継続することで、その歴史と伝統を築きあげてきました。これは誇るべき文化であると考えます。

本年度の方針として、例会や計画されている様々なイベントを通じて、ロータリー歴の短い会員あるいは今後入会される諸氏にも一宮ロータリークラブの文化を継承して頂くことを目指します。

年度早々の 2025 年 7 月 21 日（海の日）、大成中学高等学校インターアクトクラブがホストで、一宮ロータリークラブが提唱クラブの主幹を務める第 35 回インターアクトクラブ年次大会が開催されます。このイベントを通じて未来を担う若者達へ強く暖かいエールを送りたいと考えています。

また、2025 年 10 月 26 日には社会奉仕活動として「びさいまつり」会場で介助犬のデモを行います。これにより介助犬の存在が周知され支援が集まることで、一人でも多くの障害者が介助犬によって自立し、社会参加できることを目指します。

上記に加え様々な奉仕活動、親睦活動が計画されています。会員各位におかれましては、何卒年間を通じてそれら活動へのご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。